

秘

昭和十九年二月二日會議議案

昭和十九年二月二日	決議
昭和十九年二月十九日	公布
外務省	
告示第 一	號

「ア」國ニ帝國公使館設置ノ件

「クロアチア」國ニ帝國公使館ヲ設置ス

秘

昭和十八年十二月

「クロアチア」政事情

外務省政務局

一	一	一	一	一
ク	ク	ク	ク	ク
ロ	ロ	ロ	ロ	ロ
ア	ア	ア	ア	ア
チ	チ	チ	チ	チ
ア	ア	ア	ア	ア
」	」	」	」	」
國ノ	國ノ	國ノ	國ノ	國ノ
治安	廢業	領城	政情	成立
状況		及人口		
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
18	11	9	7	1

「クロアチア」概略

「クロアチア」國ノ成立  
第一次世界大戦ノ結果成立シタル「ユーゴスラヴィア」國ハ「ス  
ラヴ」系「セルブ」族、「クロアチア」族及「スロヴェーヌ」族  
ノ三祖族ヨリ成リタル國同國ノ指導權ヲ掌握シ居タル「セルブ」  
族ハ同族指導ノ強化ニ依ル中央統一王統ヲ主張シ種エス向族ノ政  
治經濟上ノ獨裁擴大ヲ圖リ來リタリ。之ニ對シ「クロアチア」族  
ハ舊來帝國內ニ於テ自治ヲ許サレ居タル傳統ト文化ノ復起感、  
宗敎ノ相違等ヨリ絶エズ抗争ヲ續ケ來リ舊「ユーゴスラヴィア」  
國ニ於テ「セルブ」族ト「クロアチア」族ノ對立激化ハ敢テ困難  
ナル國內問題ヲ形成シ居タリ。昭和十四年八月兩族間ニ妥協成立  
シ「クロアチア」族ハ同族住居ノ地方ニ於テ外交、國防、交通等  
ヲ除ク自治權ヲ獲得セルガ兩族ノ終局的融合ヲ達成スルニ足ラズ  
常ニ兩族間鬭再燃ノ危険ヲ包藏シ居リタリ。

今次「ヨーロッパ」戦争ノ進歩ニ従ヒ「ドイツ」「フランス」「イギリス」ハ其ノ「バルカン」  
 「シベリア」前線工作トシテ「ハンガリー」「ルーマニア」「スロヴァキア」  
 「フィンランド」次「ソルカリア」ノ三國條約参加後「ユーゴスラ  
 ヴィア」一國ヲモ同條約ニ参加セント努力シ米レリ。然ルニ「  
 ヴェルサイユ」條約ニ依リ成立シ親善的限同強キ同國內ニハ種々  
 側ニ参加スルコトニ對シ相面強キ反對アリタル處「ドイツ」トシ  
 テハ「布加勒スト」輕過及對「ギリシア」關係上「ユーゴスラヴィ  
 ア」一國ヲ懸念ニシ條約ニ参加セシムルノ必要アリタルト又「  
 希臘」ノ三國條約参加ニ米リシタル由自モ「ギリシア」強健ナル態度ヲ  
 以テ同國ノ参加ヲ迫リタル和未「ユーゴスラヴィア」一國政府自  
 體ハ條約ニ三國條約参加ヲ決定シ既成事實ヲ以テ及獨力ヲ伸ハ  
 シトシ遂ニ昭和十六年二月二十五日「ウィーン」ニ於テ三國條約  
 参加決定書ニ署名スルニ至レリ。

分子ハ官刑及各地ニ於テ権力及對ノ「マモンストレーション」ヲ  
 起シ爲ニ國內治安ハ危殆ニ瀕シ三月二十七日及滿州車隊ノ「ク  
 リター」一連リ「パウル」一編隊ヲ含ム三編隊及內閣縣警隊ハ  
 「メー」一員權ヲ握リ同參謀長「シモウ」一將軍內閣ヲ組  
 成セリ。初内閣ハ前政府ノ二條條約參加ヲ承認セズ總動員ヲ行ヒ  
 國境方面ニ軍ノ配備ヲ急キ國內ノ及例「ラモ」一及「トイツ」一入迎  
 普ハ紅紅々極メタリ。

茲ニ於テ「トイツ」一ハ向來ノ軍事的義務ヲ放棄シ四月六日同國ニ  
 軍ヲ退メ十日「クロ」ヲナフ一自取「フ」グラム「サクレブ」一  
 「古」領セリ。「クロ」ヲナフ一ハ此ノ機運スベカラスト屬シ同日「  
 ク」ウ「サ」ナルニク一將軍「クロ」ヲナフ一ニ獨立ヲ宣言シ「イ」タリ  
 「一」國ニ進駐中ノ「クロ」ヲナフ一獨立運動ノ指導者「パウ」エリ  
 「ナ」一師團ヲテ初「クロ」ヲナフ一師ノ指導者ト爲リタリ。

「ク」ロ「ナ」チ「フ」一國ハ成立後四月十五日「トイツ」一「イ」タリ「フ」ヨリ

年九奉命受ク十六日ニハ新内閣成立シタルカ  
 ヲイタリク一  
 サウオイー王家ヨリハ國王ヲ連フルコトト  
 シ「スホレツト」ム  
 「トミスラフ」ニ世トシテ五月十八日ヨリ「ク  
 ロフナ」一國土ト  
 宿敵ツルルコトト爲リタリ。



然シ其ノ後「スポレット」公ハ遂ニ入國セズ「バヴェリツチ」ガ  
「ボグラヴニク」(總統)トシテ主權者ノ地位ニ即クニ至レリ。  
五月十八日成立シタル「イタリア」國ト「保障及協力ニ關スル  
條約」ニ依レバ「クロアチア」ハ「イタリア」國ヨリ其ノ獨立及  
領土ノ保全ヲ保障セラレ右ニ對シ「クロアチア」ハ「イタリア」  
國ノ保障及本條約ノ精紳ト兩立セザル國際的義務ヲ負フコトヲ得  
ザルモノニシテ、「クロアチア」ハ「イタリア」ノ保護國ト看做  
サレタルモ「クロアチア」國ハ「イタリア」ノ降服ニヨリ右狀態  
ハ解消セラレタルモノト考ヘ居レリ。  
「クロアチア」ヲ承認セル國家ハ現在迄ノトコロ日、滿、支、泰、  
「ドイツ」、「イタリア」、「ルーマニア」、「ハンガリー」、  
「ブリガリア」、「スロヴァキア」、「スペイン」、「フィンラン  
ド」、「デンマーク」ノ諸國ナリ尙六月十五日「クロアチア」ハ  
三國條約ニ參加シ、同年十二月十四日對英米宣戰ヲ布告セリ尙條

聯上ハ昭和十六年以來出兵シ事實上戦争状態ニアリ  
因ニ現在「クロアチア」國ニ駐劄ノ外國使臣左ノ通り

「ドイツ」公使

「ハンガリー」公使

「ブルガリア」公使

「ルーマニア」公使

「スロヴァキア」公使

「スペイン」公使

「フィンランド」代理公使

「クロアチア」國ノ政體

「クロアチア」國ノ性格ハ「パヴェリツチ」總統ノ旨明スル所ニ  
ヨレバ「ウスタシヤ」、農民及ビ労働者ヲ主体トスル余体主義  
的國家ニシテ「パヴェリツチ」ヲ「ボグフヴニク」(總統)ト  
シ「ウスタシヤ」ガ政體ヲ有ス「ウスタシヤ」ハ「クロアチア」  
國ノ獨立ニ當リ、ソノ中心勢力トシテ活動セル革命的非法結社  
ニシテ從來「クロアチア」ノ獨立ニツキ活動シ來レル「マチエウ  
ク」(農民)ガ「セルビア」國ト妥協セル爲、之ト決裂シ、「パヴ  
ェリツチ」ノ指導下ニ歸「セルビア」強硬態度ヲ以テ獨立運動ヲ  
ナシ來レルモノナリ。現在政體ハ右「ウスタシヤ」ノ掌握スル所  
ニシテ其ノ最高部ニ「ウスタシヤ」議員十二名ヨリナル會議アリ。  
右ハ現在「クロアチア」國ノ最高機關タル實質ヲ有ス。右ノ外、  
一九四二年以來從來ノ「クロアチア」地方職權ガ召集セラレ、「ク  
ロアチア」國民代表會議トナリ居レリ。

「クロアチア」國內閣ハ總理「ニコラ・マンリツチネ」外相「ボ  
 シチェ、ボシベリツク」以下總閣員三十四名ヨリ成ル應右ハ本年  
 十月内閣増強ノ結果ニシテ之ニ依リ内閣ハ各方面ノ人士ヲ網羅シ  
 斷然統一的色彩ヲ強メタリ。

「クロフチ」一國ノ領域及ハロ  
 「クロフチ」一國ノ領域ハ大伴齋「ユースラヴィ」一縣中「  
 クロフチ」一「ホスニ」一「ヘルツェゴヴィナ」一「ダルマ  
 ナ」一「スラヴォニア」一ノ地域中北方ニ於テ「トイツ」一領ト為  
 リタル地畝五「イタリ」一ニ歸シタル「ライバツ」ハ一方及「  
 タルマナ」一ノ一部ヲ際キタル部分ニシテ「トイツ」一「イタリ」  
 トノ國境ハ以ニ條約「五月十三日」トイツ一及「クロフチ」一國  
 五月十八日「イタリ」一及「クロフチ」一國國境條約大々成  
 立ス「イタリ」一領域ニシテ「トイツ」一領域ニシテ「イタリ」  
 「イ」一領土ノ將來ノ歸屬ハ日下ノ所不明ナリ同「ハンカリー」一  
 ル「マニ」一「セルビア」一及「モンテネグロ」トノ國境ニ付テ  
 ハ未タ決定シ居ラス。兵ノ出動ハ大體十一萬五千平方キロメ  
 ルニシテ「ユースラヴィ」一國面積ノ五分ノ二強ニ當リ「  
 ユースラヴィ」一國面積ハ二十四萬七千五百平方キロメ



「クロアチア」國ノ産業

「クロアチア」國ノ主要産業ハ農産、畜産、及ビ林業ニシテ多少ノ積産アリ、若干ノ工業企業ヲ有ス、農産トシテハ小麦、玉蜀黍ノ産多キモ農耕法發達シ居ラザ、爲、穀物ノ大輸出國ニハアラス現在耕地面積ハ約四百萬ヘクタールナリ、畜産及ビ林業ハ發達シタリ、畜産品ノ品質ハ大体良好ナリ、「クロアチア」ノ製造工業品ニハ木材、紡織製品、玻璃、農産物加工品、酒類、化粧品等アリ。

礦物ハ開發充分ナラザ、モ銅、鐵、煤、相當アリト認メラレ石油、鐵、石炭、「マンガン」礦、「クロム」、鉛、亜鉛、銅、水銀、「ホトキヤイト」、「アンチモニー」、銀、金等アリ。「クロアチア」國ノ對外貿易ハ目下戰爭ノ關係上杜絶ノ状態ニア、モ「ドイツ」ニ對シテハ農産物トシテ經濟協力ヲ計リ居リ、「ドイツ」モ經濟開發ニ積極的ニ援助ヲ與ヘ居レリ。

尚一クロアチヤ一國民ノ生業別比率ハ農業（漁業・畜ム）八十％  
工業八％商業三％其ノ他九％ナリ。



「クロアチア」國ノ治安状況

「クロアチア」國ノ治安状況ハ過去ニケ年間「ミハイロヴィッチ」ノ率ヨル「チエトニツク」團「チト」ヲ主班トスル共産系「バルチザン」及「クロアチア」軍ニ「ドイツ」軍ノ三ツ巴戦ニ依リ實  
定シ盾ヲザル共状況左ノ通

一九四一年四月「ユーゴ」降服後國內ノ治安ハ「バヅェリツチ」ノ統率ノ下ニ漸次平靜ニ向ヒタルモ舊「ユーゴ」軍殘黨ヲ主体トセル「セルビア」人武装團體タル「チエトニツク」團及共産系「バルチザン」部隊ハ「モンテネグロ」「ヘルツェゴヴィナ」「スロヴァチア」地方「スロヴオニア」地方等ノ森林山地ヲ利用シ「ゲリラ」戦ヲ行ヒ共産系「バルチザン」部隊ハ森林地ヨリ空輸ニ依リ又「チエトニツク」團ハ「エデプト」及「サイブラス」島ノ英ヨリ空輸又ハ潜水艦ニ依リ天々武器、彈藥、食糧等ノ補給ヲ受ケ當初ハ閉者ノ兵力天々大体一万乃至一万五千ト稱セラレタルモ

其ノ力ハ増加シツツアリタリ「チエトニツク」國ヲ統  
 率スル「バルチザン」ト協同シテ「ドイツ」軍及「クロアチア」  
 共産系「バルチザン」ト協同シテ「ドイツ」軍及「クロアチア」  
 軍ニ抵抗セルニ倏ニハ之ト闘争スルニ至リ獨「ク」國亦之ヲ利用  
 シ「チエトニツク」國ヲ援助シ共産系「バルチザン」ニ富ルコト  
 アリ「爲ニ兩者ノ勢力ハ大ニ減ジ」ミハイロヴィチ「ノ勢力ハ  
 數千ニ共産系「バルチザン」ハ一萬余ニ減少セリトノ情報アリタ  
 リ。而シテ「クロアチア」國內ノ「ドイツ」軍ハ一九四一年末ニ  
 ハ三方、一九四二年一月ニハ約九万ニ擴大セラレ其ノ一部ト「ク  
 ロアチア」軍三ヶ師團ト協力シテ「バルチザン」ノ清掃ニ好  
 意ヲ注グツツアリタルニ「バルチザン」ノ勢力依然輕視シ得ズ  
 一九四二年ニ於テハノ數増大ノ際同ヲ辿リ與ニ一九四三年東部戦  
 線ニ於ケル蘇聯軍ノ進出ニ伴ヒ「チエトニツク」國及共産系「バ  
 ルチザン」ハ其ノ勢力ヲ増シ總數約五万ト増セラレ依然「エヂブ  
 ト」及蘇聯軍ヨリ空輸潜水艇等ニ依ル補給ヲ受ケ國內擾亂ヲ續ケ  
 タリ

本年六月以降獨「クロアチア」軍側ハ從來「チェトニツク」國ヲ  
 援助シテ其ノ對「バルチザン」戰ヲ行ヒ居リタル方針ヲ變更シ兩  
 匪賊叢波ノ方針ヲ探リタル結果「チェトニツク」國ハ「モンテネ  
 グロ」山中ニ追込メラレ「バルチザン」ト「チェトニツク」國ハ  
 引離サルルニ至レリ、其後「イタリア」降服ニ伴ヒ同國駐屯ノ伊  
 軍武裝解除セラレタル際「ダルマチア」地方ノ「バルチザン」ハ  
 「イタリア」軍ヨリ約二個師團分ノ武器ヲ獲得セル爲頓ニ強大ト  
 ナリタルモ「イタリア」軍ノ解消ニヨリ「ドイツ」「クロアチア」  
 側ノ討伐行爲容易トナリ「イタリア」軍ハ「バルチザン」部隊  
 ヲ援助シ「ドイツ」「クロアチア」軍ノ討伐行爲ニ障礙トナリ居  
 タリ「ドイツ」「クロアチア」軍ノ討伐行爲進捗シ「ダルマチ  
 ア」海岸一帯ノ要所ハ其ノ手ニ歸シ「バルチザン」モ亦山中ニ追  
 込メラルルコトトナリタリ  
 然レドモ「バルチザン」ノ勢力ハ今尙約十萬ト謂ハレ（二十萬ヲ

超ユトノ情報モアリ「ミハイロヴィツチ」軍ノ勢力ハ減少シ英  
 米ノ上陸ヲ期待シ其ノ部下ノ蒐集ヲ圖リ居ルニ反シ現在ニ於テハ  
 蘇聯邦ノ仲介ニ依リ英國ヨリモ武器ノ補給ヲ受ケ其ノ勢力ヲ増大  
 シツツアリ「ザクレブ」<sup>ベルグ</sup>「ラード」間ノ鐵道破壞行為等主  
 トシテ北部ニ於テ治安ヲ擾亂シツツアリ「ドイツ」<sup>クロアチア</sup>  
 側ハ治安ノ維持ニ多大ノ苦心ヲ拂ヒ居ル狀況ナリ尙「ミハイロ  
 ヴ」<sup>イツチ</sup>軍ノ勢力減少ハ「セルビア」首相「ネディツチ」トノ協  
 調ノ餘地ヲ作り兩者間ノ了解成立シタリトノ情報アリ「ミハイロ  
 ヴ」<sup>イツチ</sup>ノ勢力ハ現在一萬二千ナリトノ情報アリ  
 前記「ユーゴ」内ノ匪賊ヲ纏ル英蘇關係ニ付テハ「チェト」ニ  
 ヲク「團統帥者タル」<sup>ミハイロヴィツチ</sup>ハ元來反共產主義者ナ  
 ル關係上「ユーゴ」亡命政府ハ「ミハイロヴィツチ」ヲ其ノ代  
 表者トシテ對英關係ニ利用セントシ英國亦「ミハイロヴィツチ」  
 ヲ支持シ「ミハイロヴィツチ」ト共產匪賊トノ鬭争ハ英蘇ノ關係

ノ一面ヲ衰シ居ルモノト觀察セラレ英國ハ兩匪賊ノ翻停ヲ屢々圖  
リ來リタルモ常ニ失敗ニ終リ現在ニ於テモ兩者相喰ミツツアル狀  
況ナリ

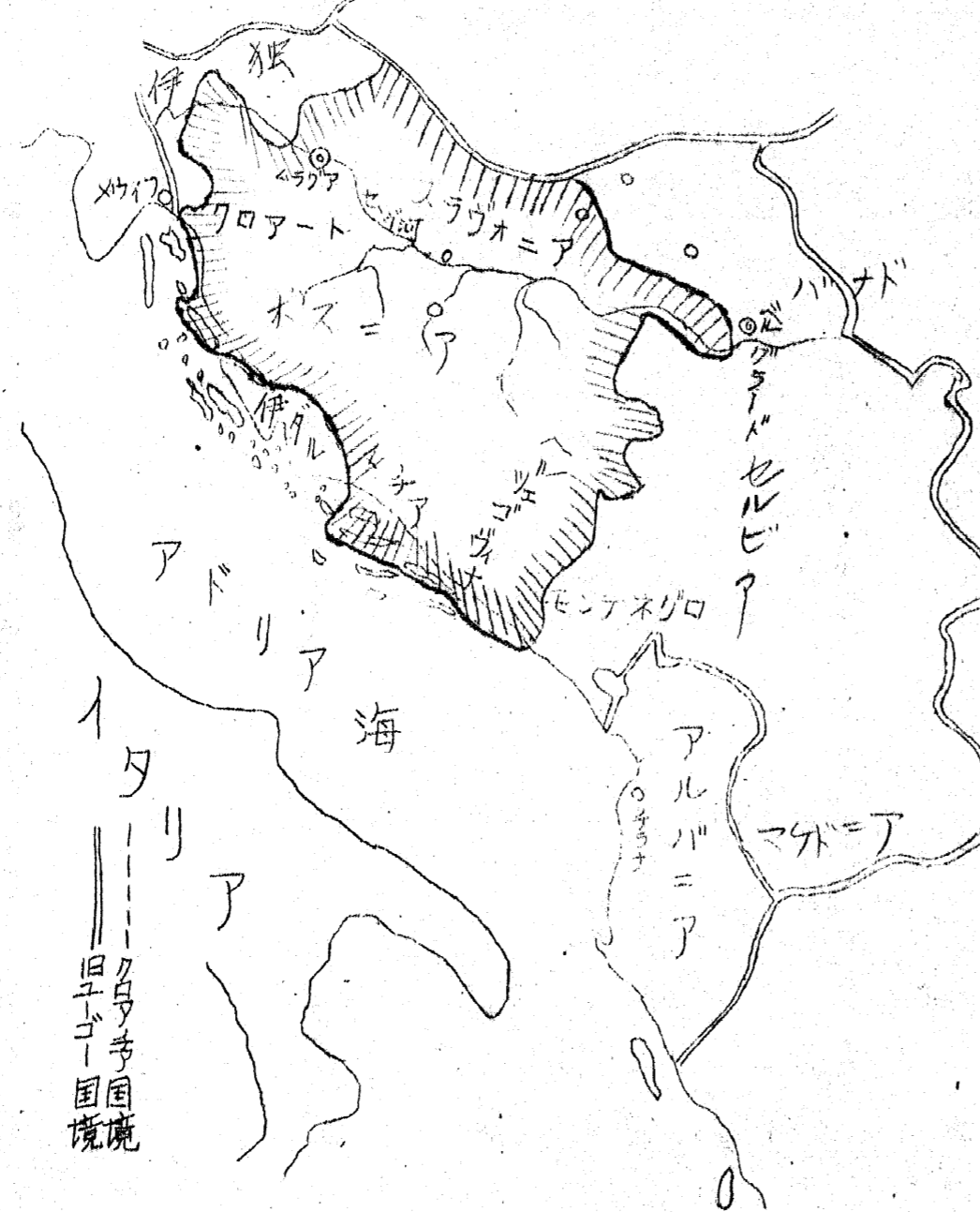
期クシテ一九四三年二月ニ至リ以テハ「ユーゴ」亡命政府ニ  
 對シ「ミハイロウ」イツナ「ハ」領軍トシテ力シツツリトノ抗議文  
 ヲ必有シ以テ蘇聯邦カ亡命政府ノ活動ニ干渉ヲナスニ至リ蘇聯邦ノ  
 蘇聯邦ニ對スル氣運ヨリ從來「ユーゴ」亡命政府ノ忠  
 ヲ支ク居リタル「クロ」ナ「内」ケリラ「部隊」ハ兵隊共座  
 末ノ者「ミカ」此「政府」ニ至リタル爲「ユーゴ」亡命政府ニ紛  
 争ヲ生ジ本年六月政府ノ以テ「見」ト「フ」イツナ「カ」内閣  
 組織スルニ至レルカ内閣モ同モナク「フ」イツナ「カ」内閣  
 取立シ七月「ミハイロウ」イツナ「カ」土兵兵隊田舎ニ據リタリト  
 ノ情報ノリ石ハ「ユーゴ」亡命政府ノ以テ「街」ナル「街」リ  
 ト觀察セラレタルカ九月ニ入り「ベ」ター「土」ハ「カ」ローニ  
 渡リ「地」ニ亡命政府ヲ移スコトナリタリ、斯ル事狀ノ下ニ最近  
 ノ蘇聯邦ノ攻撃ト「イ」タリ「年」取戦ニ力ヲ持テ「ユーゴ」  
 内ノ匪賊軍ノ猖獗極メテ盛ントナリタル矢先十二月四日自由「ユ

一ゴーストワイフ一假政府設立セラレ共産系「バルナサン」統率  
 者タル「ゲト」カ國防委員長トシテ右假政府ノ真權ヲ握ルニ至リ  
 タリトノ情報アリ。右ハ今向「テヘラン」一審議ニ赴ク途中「スタ  
 ーリン」カ「ゲト」元帥ニ任命セリトノ情報モアリ。同「ユー  
 ー」内ノ「バルナサン」ノ活動ニモ鑑ミ蘇聯邦勢乃ノ向地万ヘノ  
 進出ヲ示スモノト見ルヲ待ベク今後又「統」ル英蘇ノ關係ハ歐戰  
 局ノ發展ト共ニ複雑化スルモノト懸ラル。十二月四日發表セラレタ  
 ル日田「ユー」一假政府ハ日田「ユー」一放逐局ヨリノ放逐  
 ニ依レバ解散セラレタル「ユー」一領土内ニ於テ行ハレタル日  
 五十名ヨリ成ル職留ノ決議ニ基キ設立セラレ。職留ニ前大戦後「  
 ユ」一「ゲト」一取柄ノ立法職留局長「イワン」リ「ユー」一「ク」ロ「フ」ナ  
 フ一人ヲ代表シ任命セラレ「ゲト」一ハ假執行委員長即チ假政府ノ  
 陸相トシテ真權ヲ握ルコトナリ。外相トシテ「ス」モ「ド」ラ「カ」一「元  
 西班牙公使タリシ「ゲト」一「ユー」一任命セラレタル候補ナリ。

蘇聯邦ハ右假政府ヲ「ユーゴ」唯一ノ正式政府トシテ承認セシ  
 トノ情報モ「ル」次身ナルカ「ユーゴ」亡即政府ヲ庇護シ采レ  
 ル矣 蘇聯邦トノ關係ハ極メテ微妙ナル點ヲ示シ居レリ



○ 略国ア子アロウ



旧国境  
旧国境

クロアチア國ニ帝國公使館設置ノ件審  
査報告

謹デ今回御諮詢ノクロアチア國ニ帝國公使館  
設置ノ件ヲ審査スルニ「クロアチア國ハ昭和十  
六年四月ユーゴースラヴィア國ノ解體ニ際シ  
獨逸國ノ援助ニ依リ成立セル獨立國家ニシテ  
帝國ハ同年六月七日之ヲ承認シタルガ同國ハ  
同月十五日日本國獨逸國及伊太利國間三國同  
盟條約ニ參加シ更ニ同年十二月十四日米英兩  
國ニ對シ宣戰ヲ布告シ帝國トノ關係漸ク緊密

ヲ加フルニ至レリ然ルニ他方英米ソノ三國ハ  
クロアチア國及舊ユーゴスラヴィア地方ノ  
内部攪亂ヲ圖リ英米側ハ舊ユーゴスラヴィ  
ア亡命政府及同政府系ノ匪賊ヲ支援シソ側ハ  
之ニ拮抗シテ共產系匪賊ヲ援助シ何レモクロ  
アチア國政府ニ反抗セシメ來レルガ最近英米  
側ハソ側ノ意嚮ヲ顧慮シ從來ノ關係ヲ犧牲ニ  
シテ共產系バルチザンヲ援助セザルヲ得ザル  
狀況ト爲レリ之ニ對シ獨國ハクロアチア國ト  
相協力シテ匪賊ノ討伐ニ當ルト共ニ同國ニ公

使ヲ派遣スル外各種ノ施策ヲ以テ同方面ノ政  
治的安定ヲ圖リ特ニ最近前記諸國ノ共產系匪  
賊援助ノ事情ヲ利用シテ赤化ヲ危惧スル舊ユ  
ーゴスラヴィア諸民族延テハバルカン諸國  
ノ對獨信賴心ノ強化ニ努メツツアリ斯ノ如ク  
ニシテ相錯綜セル英米ソ獨各國ノ關係ハ今後  
戰局ノ發展ト共ニ一層複雑ナル様相ヲ呈スベ  
ク其ノ推移如何ニ依リテハ戰局ニ多大ノ影響  
ヲ及スモノアルヲ豫想セラルルニ至レリ仍テ  
帝國政府ハ曩ニクロアチア國ノ要望モアリタ

ルニ由リ此ノ際同國ニ帝國ノ專任使臣ヲ常駐  
セシメ以テ彼我ノ外交關係ヲ益々緊密ナラシ  
メ進デ同國ニ於ケル獨逸其ノ他樞軸國外交機  
關ト協力シテ同國政府ノ立場ヲ強化シ同國ヲ  
通ジテ舊ユーゴースラヴィア地方ノ安定ヲ招  
來シ樞軸國全體ノ戰爭遂行ヲ有利ナラシムル  
ト共ニ他面漸次複雑化シ來レル歐洲情勢ヲ直  
接現地ニ於テ觀察シ帝國自體ノ戰爭指導ニ萬  
遺算ナカラシムルノ必要アルヲ認メ茲ニ本件  
ヲ以テ同國ニ帝國公使館ヲ新設スルノ措置ヲ

執ラントスルモノナリ

按ズルニ本件ハ現下ノ國際情勢ニ考ヘ帝國外  
交ノ在外機構ヲ整備シテ其ノ事務處理ニ便ナ  
ラシメ以テ我が國策ノ遂行ニ資スル爲新ニグ  
ロアチア國ニ帝國公使館ヲ設置セントスルモ  
ノニシテ別ニ支障ノ虞ヲ認メザルニ由リ此ノ  
儘之ヲ可決セラレ然ルベシト思料ス

右謹デ審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十九年一月二十四日

樞密院書記官長堀江季雄

樞密院議長原嘉道殿